

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20 年 2 月 1 日
事業所名	グループホーム 「ハーモニー」
事業所番号	2375000284
記入者名	職名 管理職 氏名 瀬口 美几子
連絡先電話番号	0 5 6 1 - 6 4 - 5 0 5 6

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念は特別には作ってはいないが、地域へ出かけて行き、図書館や公園、喫茶店等を利用している。その時々に出会った方たちに挨拶したり立ち話をしたりしている。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週行っているケアカンファレンスの中で理念を確認する機会があり、個別ケアの中に生かしている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	新興住宅地のため近隣の付き合いは疎遠である。又地域の活動も消極的であり、年2回の地域の掃除に参加する程度である。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な散歩やピクニックにでかけた時、出会った近所の人に挨拶したり、立ち話をしたりしている。時に家庭菜園で採れた野菜を頂くこともある。自治会費の徴収で訪問された方にはホームでの暮らしぶりを伝えている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の自治会には加入しているが、新興住宅地のため町内の行事はなく、子ども会だけが機能している。当ホームでは、隣接する他のホームと合同で年の暮に「餅つき大会」を催し、地域の子もたちを招待している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>今年度は勉強会の機会を設け、職員の理解を深めていく努力をしていきたい。また、利用者や家族等へ「成年後見制度」や「地域福祉権利擁護事業」について、情報提供等をしていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>今年度は「高齢者虐待防止関連法」の勉強会を実施し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを職員全員で行っていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>できるだけ職員の意見や要望を個別に聴くことができるように努力していきたい。また、日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、問いかけたり、聞き出したりするようにしていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。新しい職員が入る場合は、利用者にはきちんと紹介している。		離職する職員からの申し送り内容が不十分な点があり、利用者にも影響することから、今後は引き継ぎのチェックリストを使用していきたい。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことを推進し、パートの職員にもチームの一員として、研修・カンファレンス等参加の機会を設けている。事業所外での研修は積極的に参加の機会を作っており、その研修報告はカンファレンスの場で行い情報を共有している。		研修報告は発表のみのため、その場にいない職員には分からないため、今後は、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしていきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内に連絡会があり、その中で交換研修等行い質の向上に努めている。また、他グループホームへの見学や事業所外の人材の意見や経験をケアに活かしている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレス軽減のための特別な工夫や環境作りは行っていないが、休憩時間に午睡が取れるように気を配ったり、職員間の人間関係がスムーズにいくように運営者としては心配りをしている。		職員のストレスや悩みを把握するように努め、開放的な空間づくりに努力したい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も現場のシフトに入り職員と一緒に仕事をしているので、職員の努力や成果については常時把握している。職員の疲労を蓄積させないために、就業時間内に仕事を終えることや決められた休日の保障は守っている。		職員と相談して、職員が向上心を持って働けるような職能評価作りを行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居の利用について相談があった場合は、必ず本人と家族に会って心身の状態や本人の思いに向き合い職員が本人に受け入れられるような関係づくりを行っている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>大半の家族が入居を前提に相談されるので、まずは家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯についてゆっくり聴くようにしている話を聴くことで、安心されるので、その後の入居の進め方を話し合っていく。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>大半がケアマネージャー等の相談の上来所されるので、初期対応を見極め支援する必要はない。もし必要であれば事業所だけで抱え込まず、地域包括支援センター等と連携しながら、必要に応じて他のサービス機関につなげていく。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居に至るまでの期間は、まず来所いただき、本人と家族の思いを聴く。2度目は入居利用者と一緒におやつの時間を共有する。3度目は昼食に来所いただき入居利用者と一緒に食事する。グループホームを肌で感じていただき、入居の自己決定を待つ。本人の自己決定を確認して入居の手続きを行っている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から利用者に教えてもらうという意識で、場面づくりや工夫を行っている。</p>	<p>食事づくり、洗濯物干し、掃除、釜戸でのご飯炊き等日常生活の中で利用者の「いまある能力」を発揮していただき、共に暮らしを分かち合い、支えあえる関係を大切にしている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心掛けている。毎週1回のカンファレンスの時に、利用者の要望や意見を出してもらう機会は作っている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の様子や職員の思いを伝えていくことで、家族と職員の思いが徐々に重なり、本人を支えていくための協力関係が築けることが多くなっている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に家族を誘ったりしながら、より良い関係の継続に努めている。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。また、心身の状態や気分、感情で日々変化することもあるので注意深く見守るようにしている		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へ移られた方にも、利用者と一緒に遊びに行ったりしている。また退所後の家族からの相談も受けている。管理者は他の事業所へ移られた方の面会を早い時期に必ず行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のかかわりの中で声をかけ、一人ひとりの思いや希望・意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方にも常に声かけして、表情や発する言葉からその方の思いを把握しようと努めている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>グループホームで生活の継続性を維持していくためには、その方の生活歴の把握が必要であるため、家族へは情報の大切さを伝え、把握に努めている。また本人自身にも語っていただいたり、知人、関係者等の訪問時にも話をして情報の把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに他の利用者との関係性も含め、その方の行動や小さな動作を通して感じ取り、本人の全体像を把握している。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族には日頃からかかわりの中で、思いや意見を聴き、反映させるようにしている。ケアカンファレンスの中で、アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリングを行っている。</p>	<p>毎週ケアカンファレンスを行い2～3名の利用者を対象として、1ヶ月で全員のケアカンファレンスを行っている。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員が情報を確認し、家族や本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直し、状態が変化した際には終了する前であっても検討見直しを行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を用意し、食事、水分量、排泄等身体・精神状況および日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録し、職員間の情報共有を行っている。また、個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人と地域とのさまざまな接点を見出し、周辺施設への働きかけやボランティアへの協力を呼び掛けている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを活用しなくても、十分にグループホーム内での物的・人的支援で利用者の普通の暮らしが維持できている。		利用者の状況や希望に応じて、地域のケアマネジャーやサービス事業者と連携を図り、生活支援に努めていきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働はとっていないが、運営推進会議に毎回町役場から職員の参加があり、それにより、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用者からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、家族と協力し訪問診療に来てもらうケースもある。通院は基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が代行するようにしており、利用契約時にその旨を説明し、同意を得ている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	事業所の協力医に相談したり、家族の希望等で専門医の診断や治療を受けられるように支援している。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間は、介護職員の記録をもとに確実な連携を行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしているまた、家族とも情報交換しながら、回復状況等速やかな退院支援に結び付けている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化に伴って、事業所が対応し得る最大のケアについて説明し家族の了承を得て実践している。状態が変化した場合は、速やかに家族へ連絡し報告している。終末期に向けた対応は、家族交流会で全家族へ準備段階であることを伝えているところである。		重度化に伴うケアについては、今後、意志確認書の作成を行いたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の利用者に対して、安心と安全が確保できるよう全職員で協力してケアしている。利用者の状態が変化した場合は、速やかに協力医との連携をとり対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>他の事業所に移られた場合、暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心掛けている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者のケアにおいては、さりげなく本人を気づ付けることのないように対応している。個人の秘密保守については、全職員及び実習・研修生からも文書で誓約書を取り秘密保守の徹底に努めている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者に合わせて声かけし、意志表示が困難な方には、表情を読み取ったりして、些細なことでも本人が決める場面作っている。(食事、排泄、睡眠、入浴、掃除など)</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>1日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行っている。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>朝の着替えは、基本的には本人の意向で決めており職員は見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。しかし、自己決定がしにくい利用者には職員と一緒に考えて、本人の気持ちにそった支援をしている。また、行事等日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるように心がけている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは利用者の声も参考にして決め、調理、盛り付け、配膳、片付け等も参加できる利用者と共に、職員と利用者が同じテーブルを囲み楽しく食事できる雰囲気づくりも大切にしている。		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人ひとりの嗜好物を理解しており、本人の様子や時間を見ながら、それを楽しめるようにしている。たばこについては、職員が預かり、本人の希望にそって他の利用者の迷惑にならないよう、換気のよい場所で吸えるよう配慮している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握し、トイレ誘導することでトイレでの排泄を促している。失敗してしまった場合は、極力本人が傷つかないように手早く、周囲に気づかれない等の配慮をしながら対応している。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方向的に決めず、利用者のその日の希望を確認し入っていただいている。また、入居して間もない方や、服を脱ぐことを嫌がる利用者には、職員も一緒に入り安心感を持ってもらう工夫をしている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。その他、昼食後は午睡の時間があり午前中の疲れをとり、午後の活動の源にしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮できるよう支援している。食事作りや庭の草むしり、梅干しやらっきょ漬、干し柿作り等利用者の経験や知恵を発揮する場面を作り、スタッフは利用者に教えてもらうという姿勢と感謝の言葉をそえて共に楽しんでいる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金を持っていたいという要求に応じ、少額を手元に持っている人もいる。買い物や喫茶店を利用される方は、家族より一定のお金を預かり、必要時本人へ手渡している。金銭の管理は事業所が行い定期的に家族・本人へ報告している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の体調や気分に応じて、季節を肌で感じ心身の活性につながるよう日常的に散歩に出かけている。また、利用者と相談して外食、ピクニック、ドライブ等の楽しみごとを行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	大半の家族は、利用者と一緒に買い物や外食、旅行やお墓参り等をされているので、その前後の支援はしている。特別、事業所からの提案はしていない。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用される場合は、会話が他の人に聞こえないように場所の配慮を行っている。文字を書くというその時の能力を発揮できる方の場合、積極的に個別対応して手紙を書いていただくようにしている		年賀状や暑中見舞いを出す支援をしていたが、文字を書くことに抵抗のある方や、書くことに集中できなくなってきた方が多くなり出さなくなった。しかし、文字を書くことにのみとらわれず、1枚のはがきや手紙の内容を職員とともに工夫して作り上げていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族も親の家を訪れるような気軽で来やすい雰囲気作りを心掛けている。訪問時間等は決めておらず、仕事帰りや家族の都合のいい時間帯に、いつでも訪ねて来ていただけるような配慮をしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は身体拘束によって利用者が受ける身体的・精神的弊害については理解しており、開所以来1度も身体拘束はしていない。身体拘束をしなくてもいいケアに取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出しそうな様子を察知したら、止めるのではなく、さりげなく声かけしたり一緒について行く等安全面に配慮して自由な暮らしを支えている。		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行いながら、さりげなく全員の状況を把握するように努めている。夜間は、数時間毎に利用者の様子を確認するとともに、起きられた時にすぐ対応できるよう居場所を工夫している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くようなことはなく、利用者の状況変化によっては注意を促していくなど、ケースに応じた対応をしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる。例えば、誤嚥のリスクの高い利用者の食事支援や内服の方法、転倒が予測される方の履物や床の工夫等を行っている。		日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図ってはいたが、その記録から事故の未然防止の分析までは行っていなかった。今後は、ヒヤリハット記録を分析し、予測できることとできないことを全職員がわかるように学ぶ機会を予定している。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、応急手当や蘇生術の研修を行ったり、けが、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等その時々に対処方法を学習してきたが、現在、平穏な毎日の中では定期的な学習の機会は設けていない。		職員の入替えもあり、この機会に全職員が応急手当や初期対応ができるように、定期的に訓練を行っていきたい。また、年1回、消防署の協力も得ていきたい。夜間の緊急時対応についても、再度周知徹底を図っていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、火災を想定した消防訓練（避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方、通報訓練等）は毎月行っている。地震等の災害については、年1回程度、避難訓練をおこなっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	様々な役割活動や自由な外出により、リスクが高くなるものの、力の発揮や抑制感のない暮らしが利用者の表情を明るくし、むしろ行動の障害を少なくしていることを家族に見てもらったり、具体的に説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は毎日、バイタルチェックを行い、食欲や活気、顔色、様子等を観察・記録している。少しでも変化等気づいたことがあれば、直ちに管理者に報告するとともに職員間で共有し、対応にあたっている状況により、協力医へ報告して指示を受ける。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の方法と、薬の内容(目的、用法、副作用等)は個別に薬袋を作り、把握できるようにしている。薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化がみられる時は詳細な記録をとるようにしている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材(発芽玄米、キノコ、海藻、豆類、芋類、野菜等)を積極的に取り入れている。体操や散歩、家事活動等身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便できるよう取り組んでいる。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性については全ての職員が理解しており、朝・昼食後と就寝前には、利用者一人ひとりの力に応じた歯磨き及び義歯洗浄の手伝いを行っている。		今年度中に、歯科衛生士を招いて、口腔ケアの学習会を予定している。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こり得る感染症について、一部マニュアルを作成し予防・対策に努めている。また、利用者家族に同意を頂き、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。		感染症マニュアルについては、細かく作成されていないので、今年中に仕上げていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	スポンジやたわし、布きん等は毎晩、漂白剤や熱湯を用いて清潔にしている。冷蔵庫の掃除は、毎週木曜日(冷蔵庫が一番カラになる曜日)に行っているまた、昼食後、天気の良い日は、調理器具やまな板を天日干ししている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるように、玄関先にプランターを置いたり、花壇を作って季節感を演出している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、ご飯の炊ける匂い、心地よい音楽、ユズ湯や菖蒲湯、鍋料理やおせち、柏餅や水ようかんなど、五感や季節感を味わえるように、意識的に取り入れる工夫をしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子を置いたり、和室を利用できるようにして、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるペースを作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンス、椅子以外にも、それぞれの利用者の好みや馴染みの物などを生活スタイルに合わせて用意していただいている。また、使い慣れた目覚まし時計や小物、家族の写真なども持って来ていただき、安心して過ごせるよう配慮してる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気との温度差がある時は、温度計と利用者の様子を見ながら調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手すりや浴室、トイレ、廊下、玄関などの居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって「何がわかりにくいのか」「どうしたら本人の力でやっていただけるか」えお追求し、状況にあわせて環境整備に努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターや花壇に季節の花を植え、利用者が日常的に水をやったり、見て楽しんだりしている。また車椅子の方も玄関を出て日光浴や花見を楽しんでいただいている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者が普通の暮らしができるように支援している。その為には、利用者の自己決定を大切に、今ある力(能力)を活かし、継続性がある生活作りに努めています。一人ひとりのニーズを活かし、生活を楽しんでいただけるように努力しているが、職員不足と求人難の中では、思いが実践につながらない現状です。ぎりぎりの職員の数では無理があるため、職員の疲労も増し、腰痛も発生している悪循環の中で、職員も懸命に働いていることを知ってもらいたいし、評価もしていただきたい。